

かな部

山野井 珠 几

やつと作品が出来上がると、次はマットの色選びをします。表具屋さん任せの方も居られるようですが、私は結構かわります。作品にどんな色が似合うか。広い美術館で映えて、効果的なのは何色か？
かなの場合、本紙の色も様々、模様の種類、ほかしも色々です。作品も、ちらしや墨色で表情が変わるので、選択肢も多くあります。

今回も決定するまで数日悩みました。水明書展が楽しみです。
かな部 条幅課題

A 白魚の移ろふ群のひとながれ

初秋の雲の空にすずしさ (北原白秋)

・白魚が青い水の中を群れをなして移り流れて行く。そのように、初秋の雲は青い空を流れていかにも涼しい。

B 山の色釣り上げし鮎に動くかな

(原石鼎)

・釣り上げた糸の先で鮎が踊る。そのびちびちとした躍動が山の緑の色を動かしたと見たのである。釣竿の動き、鮎のはねる姿が目に見えかぶ句。

(しめきり)……………九月十六日)

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

※出品資格…五段以上。A・Bの両方同時に出品可。

※二点出品の場合、出品券の下部にA・Bを明記のこと。

(選評)

師範・準師範の部

陽光君 常套的な書きぶりながら、センスが光る。

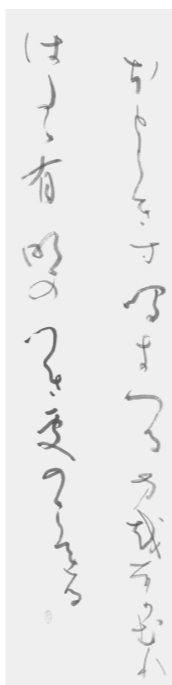
籙東君 運腕大きく、変体がなの使い方も巧み。

青蕙君 三行の流れは素晴らしいが「鳴」大きすぎたか。

珠房君 品位を感じる作。

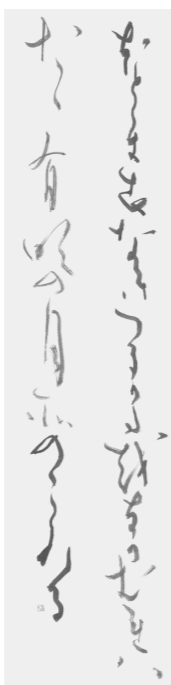
貴祥君 見せ場の活躍部分が大きすぎるが魅力有り。

(助教以下の部)



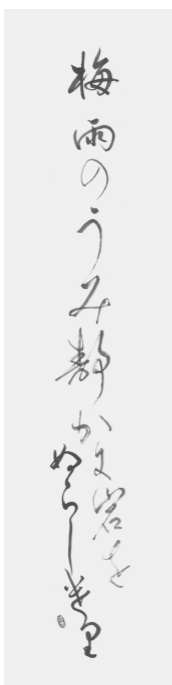
後藤 幸子

素直に淡々と書かれていて佳作。



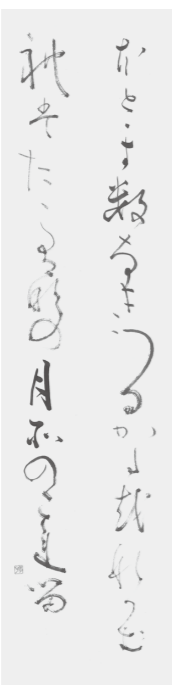
穴田 小糸

文字の大小も変化に富み、構成良し。



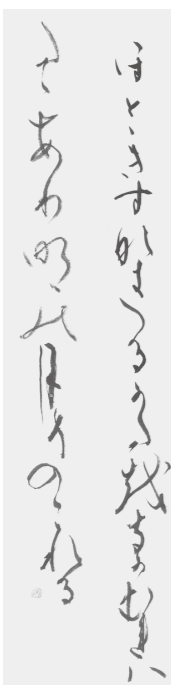
加藤 俊宏

中心に書きすぎだが、終句で上手くまとめた。



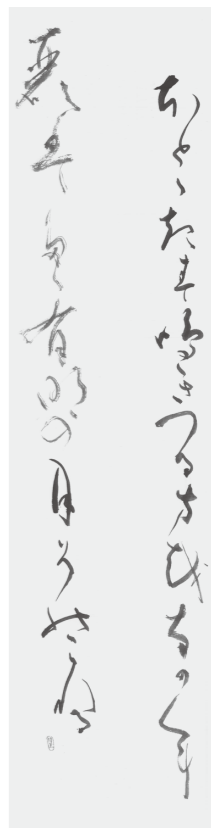
石田 孝子

工夫が感じられる優雅な作。

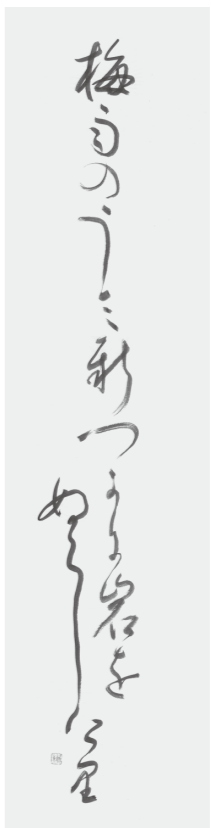


谷口 誠

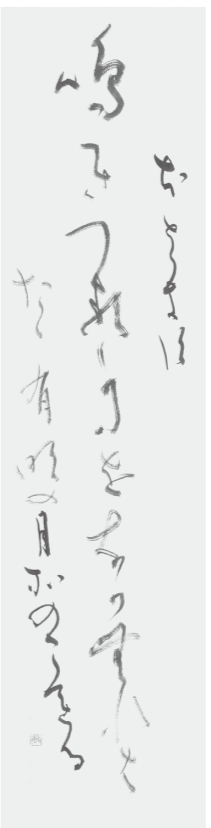
左右の動きも有り、字間も考慮されている。



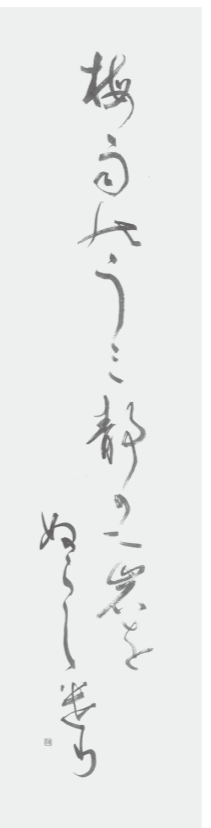
石田 陽光



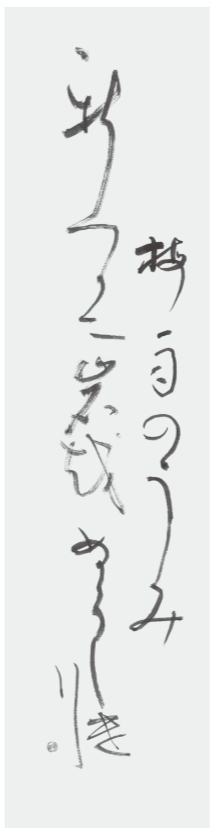
服部 籙東



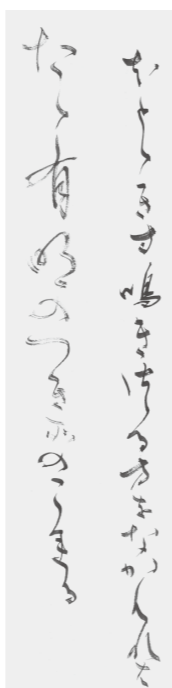
児島 青蕙



森川 珠房



奥本 貴祥



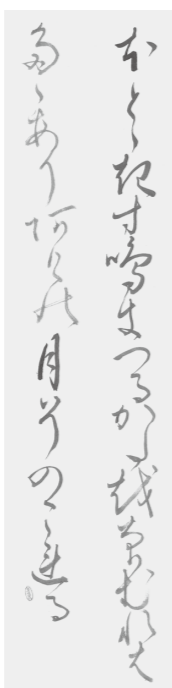
天川 青扇

印を忘れられたのか？見応えある優秀作。



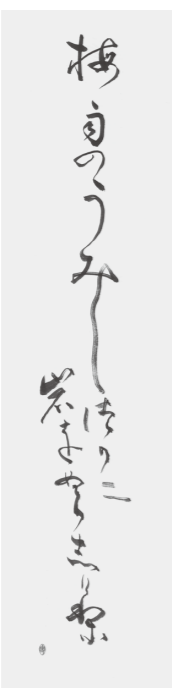
藤原 悠几

上下にちらされ、見事。渴筆が凄い！



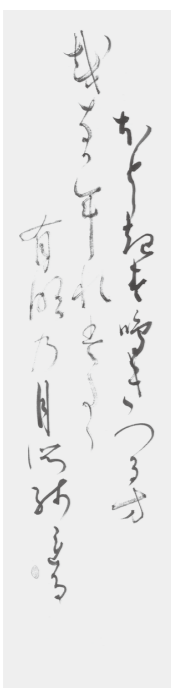
内田 秋蘭

流麗。今後は線質、速度の変化を求む。



中川 雪湖

見せ場の破筆大胆。終句が素晴らしい。



小森 琴葉

三行書きの意欲作。下部の余白が気になる。